

マスターズ宿泊研修「早朝演壇」より

「守るべきもの」・夫、父親としての役割

町田相模ブロック 白石英樹

不安定な家庭環境

私がスコールの早朝研修に参加したのは、今から4年前、息子の入院がきっかけでした。その後、マスターズの生きがい講座で、税所弘先生のお話を聞き、本格的にスコールで学ばせていただくようになりました。当時、私は妻と3歳の息子の3人家族。多くの不安を抱え、家庭環境は不安定なものでした。私の両親は既に他界しておりましたが、両親が生前に背負っていた問題が、少しずつ私達の前に現れていました。スコールに出会った当時、私は、長男としての責任感から、両親が残っていたものを、一身に背負おうとしていたような気が致します。「祖母の介護」「父親の事業の承継」「従業員の生活の確保」「息子の病気」「妹の借金癖」「妹夫婦の不仲」などが、私達夫婦の前に突きつけられていました。



祖母とは同居を始めましたが、90歳を超えた祖母の介護は、私の想像をはるかに超えて、孫嫁である妻への負担・ストレスとなりました。事業の承継もなかなか軌道に乗らず、経験不足・資金不足に悩まされ続けました。重ねて、息子が喘息、川崎病を発症。後遺症で心臓の動脈に瘤が残り、心臓に血液の逆流も見つかりました。不安ばかりが募る中、妹がカードローンを重ね、嫁ぎ先から家出したことが発覚。当時、私は親代わりのつもりで、妹に資金援助を繰り返し、その対応が夫婦関係に微妙な影を落とすことになっていました。

守るべきもの

混乱した私は、永池会長のカウンセリングを受けさせていただきました。相談は、妹夫婦の不仲やカードローンの話しを聞いていただいたのですが、その際、会長から「あなたには守るべきものがある!」と強く諭されました。「妹さんが頼るべきは妹さんのご主人であって、あなたではないはず」「親の元にあった兄妹関係と、親亡き後の兄妹関係は違ってきて当然」「金銭的な援助をやめ、精神的な援助にすること。そうしないと、あなたの家族がおかしくなりますよ」とご指導いただきました。

振り返ってみますと、両親が他界してから、私は、「親に対しての『子』」、「妹に対しての『兄』」としての立場に強く縛られ、その立場を優先していました。恥ずかしながら、私自身が既に「夫」であり、「父親」であるという自覚に欠け、自分の家族への想いが二の次になっていたの

です。問題に対処しているつもりで、家族の不安を大きくし、かえって問題をこじらせる結果になっていました。「あなたには守るべきものがある」という会長のご指導は、当時、パニック状態にあった私を正しい立ち位置に戻して下さったように感じています。

軸足を自分の家族に

その日、家に帰った私は、妻に「いろいろあるが、何があっても、僕は自分の家族を守る」と伝え、軸足をしっかり自分の家族に置くことを決めました。夫として、父親として、その役割をきちんと果たしていく必要がありました。我が家に落ち着き生まれ始めたのはその瞬間からだったように思います。その後、いろいろなことが起きましたが、常に家族のことを一番に考え、判断を下すようにしました。妻の不安が、信頼へと変わるとつれ、祖母や妹との関係も改善し、事業も落ち着いてきました。昨年、祖母は亡くなりましたが、皆で気持ちを合わせて送ることができました。また、お陰様で息子の心臓も後遺症が改善しているようです。

会長のご講話に「父親の出現と家族の成立はつながっている」とございます。私は入会当初の自らの経験から、父親は、「家庭のコーディネーター」として、家族の進むべき道を定め、家族をまとめる重要な役割を担っていること、もし、父親がその役割を放棄すれば、家族は崩壊の危機に瀕することを、学ばせていただきました。

今回、演壇にあたり、数年前の会長のカウンセリングを振り返らせていただきましたが、もし、あの時、私がスコールにいなかったら、果たして、今の夫婦関係・家族関係があったかどうか疑問です。あれから約4年。未だに、学びのスタートラインにいるような感じが抜けませんが、これからも、スコールで学び続けて参りたいと思います。

編集後記

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、彼岸を過ぎてやっと普通の気温になった感じがします。夏の疲れが出ない様、気をつけたいものです。こんな時期に、心身開発トレーニングは、大変有効です。座禅・ボイストレーニング等で心身ともにリフレッシュ出来ます。皆様のご参加をお待ちしております。紙面の都合で、掲載できませんでしたが、来る11月3日(祝日)には、中野サンプラザで、「スコール30周年記念大会」が開催されます。マスターズの皆様も、どうぞ奮ってご参加下さい。(菊地 啓)

編集：社団法人 スコール家庭教育振興協会
スコール・マスターズ 広報委員会
発行人：小俣富雄
〒252-0206 相模原市中央区淵野辺4-37-17
TEL：042-707-4500
http://www.schole-masters.org

スコール・マスターズ通信

第40号
平成22年9月30日

「首都圏生きがい講座」に165人(うち男性111人)が耳を傾ける

7月17日(土)、淵野辺のスコール会館で「首都圏生きがい講座」が開催されました。2階ホールは満員の熱気に包まれました。マスターズ会員の川田昌孝氏から体験発表があり、続いて、永池会長から講演をいただきました。

永池榮吉会長 講話要旨：「危機管理能力を鍛える～その時あなたは どうしますか」



スコールの学習の基本テーマは、自己実現と危機管理にある。生老病死の様々なピンチを乗り越える術を持たないと自己実現もかなわない。危機管理ということは「人生の地図」を学ぶということである。孔子、釈迦、キリスト、ソクラテスなど先哲が語った言葉や、説いた教えは重なる所が少なからずある。その重なったところが人間の英知といえる。それを学ぶことが人生の地図を学ぶことになる。人生の地図を学ぶにあたって、「知を磨き、愛を深め、成る働きを育てる」ということが大切と30年前からスコールでは提唱している。

「知を磨く」とは工夫していくということ。何ごとにも工夫を重ねていくことで与えられた環境に適応していくことが出来る。

「愛を深める」を「共感」という言葉で私は表現している。人は共感をしてもらうだけでエネルギーを与えられ、次のステップに立ち向かうことが出来る。

「成る働きを育てる」は決めたことを決めたように行うという実行力である。

スコールでは知識を得るのみではなく、自分の

中に必要なものを育て、実行していく力をはぐくむように工夫したシステムを作っている。早朝研修もそのためにある。

起こった事象には必ず両面がある。マイナスの面を見て現実を直視しないで逃げていけばさらに悪い結果をもたらす。プラスに考えることが出来れば良い結果になっていく。「プラスに考えること」も訓練が必要である。

会長からは以上の要旨で具体的な事例を挙げて熱のこもったお話がありました。



川田氏体験発表

氏が会社を辞めるに至る4年間ほどの「喜び・楽しみ・うれしい・笑う」を忘れていた時に、会長のカウンセリングを受け、道が開けたことについて語られた。自分はどうかやって会社を良くしようかという観点から会長を訪ねたが、会長からは全く意外な指導を受け、それに従って今日の健康でかつ前向きな生活を手に入れることが出来た。カウンセリングを受けて、人生の危機を乗り越える基本的な考え方を身につけることも出来たことを感動的に発表された。

下期本部研修

下半期のマスターズ研修は淵野辺のスコール会館で開催されます。下掲の日程・要領で「心身開発トレーニングコース」と「人生学コース」の月2回の開催となります。受講料は各コースそれぞれ、5,000円(下半期)ですが、両コース共受講する場合は7,000円(下半期)となります。体験参加も無料で受け付けていますので是非ご参加下さい。

心身開発コース	人生学コース
10月3日(日)	10月17日(日)
11月7日(日)	11月21日(日)
12月11日(土)合同研修・懇親会(14時開始)	
1月9日(日)	1月23日(日)
2月6日(日)	2月13日(日)
3月6日(日)	3月13日(日)

人生学コース (10:00 ~ 12:00)
第一部【60分】
<実践体験の事例発表> 講師養成講座メンバー
第二部【50分】
<会長講話&質疑応答> 永池会長・小川本部長

心身開発トレーニングコース (10:00 ~ 12:30)
<リラクゼーション禅> 小川本部長
<ボイストレーニング(発声練習)> 小川本部長
柴原・白石・原各委員(トレーナー)
<ボイストレーニング(朗読練習)> 北澤委員
トレーニング後、昼食懇談会(500円)を開催します。

マスターズ宿泊研修 「早朝演壇」より

出向という転機を迎えて
京浜ブロック 渡部 潔

グループ会社への出向 スコールへの入会は多くの男性の方がそうであるのと同じく、妻が入会しそしてその熱心な活動状況を見て私も生きるための指針を見つけない、何かを掴みたい、という気持ちでスコール及びマスターズへ入会致しました。入会後妻は約11年、私は約4年経ちます。お陰様で家庭では大きな問題はなく夫婦円満、長女17歳、長男10歳においても伸び伸びと明るく育っています。

そのような中、実は私は今、日々大変に悩んでいます。それは約30年勤めた銀行から今年の1月にグループ会社に出向を命じられ、損害保険の代理店業務という新しい環境で働き始めたのですが、どうしてもその業務、処遇を精神的に、身体的にも受け止めることができないということです。正直毎日毎日が辛くてしょうがありません。

損害保険の代理店業務に詳しい方もいらっしゃると思いますが、金融業務であり前職との関連性も深くまた顧客も銀行でのお取引のある方が中心です。現在の業務も前職において営業畑で永年働いてきたことを踏まえ営業部隊に席をおいでしています。銀行が人件費の削減ということでグループ会社、お取引様に出向する制度がある中で行き先としては大変に恵まれているとは思いますが、また昨今の就職不況の環境を考えると働けるだけでも有難いと思わなくてははいけないと思います。

それでは何故嫌なのか？理由は二つあります。一つはつまらないことだと思われるでしょうが、プライドです。前職では昨年12月まで副支店長を3店ほど経験し、次は支店長を目指して頑張っていました。支店長昇格試験にも受かり年齢的にも最後のチャンスかと思っていた矢先の人事異動、出向命令でした。支店での営業成績も決して恥ずかしくなく他に見劣りすることもなかったのですが直接の人事権のある支店長との折り合いが悪く支店長への推薦をいただけませんでした。

グループ会社ですので銀行の支店を訪問することも多く、同期支店長のいる店舗、かつての部下がいる店舗を回らなくてははいけないことも多々あります。同期に対しては同じく目先支店長を目指していた仲ですから正直言って敗北感があります。

支店長になったからといってきっと満足感に満ちたわけではないと思います。支店長のなかでもランクがあり、またその上もあるわけですから、

きりがいい話であると思います。こんな敗北感、小さな話だと心ではわかっているのですが、まだ精神的に克服できていないのです。

人生の価値観

永池会長に本件についてご相談をさせて頂いた時に第一声で言われたことが「仕事の成功が必ずしも人生の成功と一致するわけではない」とおっしゃられました。その通りだと思います。とても有難いお言葉でした。生きていく上で何を指したら良いか、「人生の成功、達成感、満足感、生きていて良かった」は「支店長になる」「会社で偉くなる」そんな話ではまったくないのです。「人生の価値観は別のところにある」ここまでわかっている・・・なぜまだ悩むか・・・私の精神修行が足りないのです。マスターズの先輩に相談したところ同じような境遇になった経験があるが上席になった同期に対しても「おう、早く役員、社長になれよ」と言えるまでになったとおっしゃっていました。まさに心の構える次元を違うところに持っていかれている状況であると思いました。

何をめざしていくか

現職にあまり気が進まないもうひとつの理由として、職種としてまったく別のこともやってみたいと思っていることです。興味としては「食」に関連したことに関心があります。銀行時代より親しくさせて頂いている方からこれからの日本の「食」を考えるに際して「食の安全」「オーガニック」等のお話をよく聞いておりました。現在もその方を通じ多くの方をご紹介いただいております。お話を聞けば聞くほどこの分野のこれからの重要性、社会的な必要性が高いことがわかり本気で関わってみたいとも思っています。そのような中、今回の出向が、もしかすると転職を志すきっかけになるのではと思っています。ただ、現在の収入が保証されるわけではなく経済的なことを考えると簡単に踏み出せないのが現実です。しかし、やりたいことがあるのであればチャレンジすべき、とも思っています。本当に悩みどころです。

今回、早朝演壇を依頼されましたが、今まで演壇の方の内容を考えますと「スコールをやってこんなふうに分が変りました」「マスターズで勉強することでこんなことに気が付きました」と皆さんにお役に立つ話が多い中、私はまさに悩みの真っ只中、皆さんにお話できる良い話はありません、とお断りをしていたのですが、現在の心境、状況を素直にお話しさせて頂くことも良いとのことでしたので、私の未熟な精神状況を吐露させていただきました。これからマスターズ、スコールでの生涯学習を通じ、自分が何を指していけば良いかを探していきたいと思っております。



連載

進むべき道・運命は変えられる

青葉都筑ブロック 桑折 能彦

地図に残る仕事



前稿で「横浜国際総合競技場(現日産スタジアム)」建設に関わったことを述べました。本施設はスポーツの拠点としてこれからもその機能を十分に果たしてゆくでしょう。ある建設会社の宣伝文言に「地図に残る仕事」というのがありますが、自分が関係した建物がこの地上に残ることは建設従事者にとっては、とてもうれしいことなのです。

しかし、私には自分が関係した建物がこの地上から跡形も無く消滅してしまった悲しい出来事があります。それは今から約20年前の1991年1月17日に勃発した「湾岸戦争」で、クウェート国に建設してきた石油精製プラント施設がイラク軍の攻撃を受けて爆破・炎上してしまったのです。完成からわずか9年の命でした。自宅で身を横たえながらTVニュースを見ていたのですが「アッ！あの施設は！まさか！まさか！」起き上がり正座し画面を凝視しました。夏季は50にもなるのでコンクリート打設は日中はできず、太陽が沈んでから始めて作業が終了したときには満天の星空と美しい月が輝いていたことなど思い出深い建物が次々と爆破・炎上してゆく映像でした。まさか、戦争で自分が関係した建物がこの地上から消滅してしまうことなど考えたこともありませんでした。

片目を失って見えてきたもの

以前、私と同年齢のTVタレントの「おすぎとピーコ」のピーコさんが眼のガンのため眼球を摘出し義眼となり、「片目を失って見えてきたもの」という題での講演を聞いたことがあります。彼を取り巻く実に多くの人々(永六輔、吉行和子、淀川長治、淡谷のり子、石井好子・・・)が心の支えになってくれたようです。おかげでピーコさんは「救われたこの命は自分だけのものじゃない。自分はひとりで生きているのではない。自分の満足だけで生きているなんてなんと愚かなことだ。」と目は失ったけれど、逆にいままで見えなかったいろいろなことが見えてきたそうです。抗ガン剤のために毛は抜けるし、片目のために距離感がわからず地下鉄の赤坂見附駅では電車とホームの間にすっぽりと身体が挟まり両足は地面に届かず宙ぶらりんとなったのを若い

人に引き上げてもらい、恥ずかしさと痛さにお礼も忘れ隣の車両に逃げるように移ったとのこと。社会復帰はもう無理と思い、一時は真剣に死を考えたそうですが、こんな姿になっても私にしかできないものがあると目覚めたそうです。ここに彼の素晴らしさがあったと思います。まさに「生命の覚醒」です。

建物を失って得たもの

私の場合、自分が関係した建物を失って得たものは何であったか。単にアラブ人と一緒にプロジェクトを完遂したという経験だけなのか。オイルダラーで潤っているリッチな南国と自国には産業が無いため出稼ぎで外貨を稼がねばならない東南アジアの貧しい国との差。その出稼ぎの父親たちは少なくとも2年～3年は帰ることもできず、遠くはなれた子供・妻へクリスマスプレゼントをはやばやと準備する父親の姿を見ることができました。湾岸戦争では日本はオイルの安定確保のため約90億ドル(当時の円換算で約1兆2000億円)の戦争協力負担金を支払ったのでした。「日本という顔がよく見えない」と揶揄されたのがこの時期でした。

人生学講座

今の私にとって「失って見えてきたもの、最もほしいもの」それは何かと言えば、時間と健康です。現職にいたときは目の前のジョブをこなすことに追われていた感じでした。いま、スコールで「人生の自己実現、人生の危機管理」を学んでいます。が、当時は時間の大切さや、目の前で生じた人生の危機に正面から取り組んだかどうか、無駄に過ごしてきた感じがします。船も難破しないためにはときおり羅針盤をチェックするように、スコールにおいて軌道修正したり、風待ちをしたりして人生の後半部に突入したいと思っています。

信念をもって努力

去る7月の日経新聞の「私の履歴書」の欄はウミホテルから発光物質を発見したノーベル賞の下村脩先生の自分史でした。先生の人生はけっしてエリートコースでは無く、毎日が地道な実験、実験、実験の繰り返しの日々であったようです。そしてこの発光物質の発見は灰色であった自分の将来に希望をあたえるのに十分すぎる成功であったが、それよりも大きな収穫はどんな難しいことでも努力すればできるという信念を得たと書いています。わたくしの場合、確かに自分の関係した建物はこの地上から消滅しましたが、人間ここからだが健康であればまた楽しい人生が可能。そのためにスコールの「心身開発トレーニング」で発声・座禅・朗読を楽しんでいます。一身にして二生を得ることが出来ることを望んでいます。(つづく)